

“共創” 自治協議会サミット

□開催日時：平成 28 年 11 月 25 日（金）13:00～（12:30 開場）

□開催場所：なみきスクエア（東市民センター）

なみきホール

□主 催：福岡市自治協議会等 7 区会長会，福岡市

“共創” 自治協議会サミットプログラム

(敬称略)

時間	プログラム
13:00	開会
13:15	自治貢献者感謝状贈呈式
13:30	地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈式
13:50	<p>活動事例発表</p> <p>○地域子ども健全育成ネットワーク「のびのび美野島」</p> <p>博多区 美野島自治協議会 会長 桜田 明夫 のびのび美野島 会長 谷川 久子 〃 事務局長 緒方 隆二</p> <p>◇“ふくおか”地域の絆応援団評議会の設立と今後の取組みについて “ふくおか”地域の絆応援団評議会 評議会会長</p> <p>○防災フェスタ in 平尾</p> <p>中央区 平尾校区自治連合会 会長 小山 毅 平尾校区男女共同参画推進協議会 会長 井川 春奈</p> <p>○高齢者が安心して暮らせるまちづくり</p> <p>南区 弥永校区自治協議会 会長 新堂 末幸 弥永校区社会福祉協議会 会長 大島 好勝</p> <p>◇商店街と自治協議会の連携による地域情報冊子の作成</p> <p>飯倉商店街連盟 理事長 高取 弘夫 飯倉校区自治協議会 会長 橋本 幹生 〃 事務局長 笠松 直樹</p> <p>○かなやまカフェ「たまり場」 ～お子様連れからお年寄りまで、気軽に集える場所～</p> <p>城南区 金山校区自治協議会 会長 田中 博 金山校区社会福祉協議会 会長 藤田 治子</p> <p>(休憩)</p> <p>○できることから少しずつ～校区に広がる女性の視点～</p> <p>早良区 早良校区自治協議会 会長 横江 幸夫 早良校区環境衛生組合連合会 会長 熊家 勝 早良校区環境女性サミット実行委員会 会長 池田 勝代</p> <p>◇コミュニティの基礎体力づくり～大学、企業と連携した取組み～ 独立行政法人都市再生機構九州支社 団地マネージャー 中村 直寿</p> <p>○みんなで踊って深める絆</p> <p>西区 姪浜校区自治協議会 会長 高木 柁彌 姪浜校区伝統文化推進委員会 会長 尾石 静雄</p> <p>◇地域社会のために、できること</p> <p>株式会社 西日本シティ銀行 地域振興部部次長 徳留 正幸</p> <p>○国際交流事業「交換ホームステイ」について</p> <p>東区 東箱崎校区団体協議会 会長 馬場 公司</p> <p>※ ○…各区自治協議会等からの事例発表 ◇…地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等からの事例発表</p>
16:00	閉会

福岡市自治貢献者感謝状贈呈者名簿

(敬称略 50音順)

特別感謝状

(博多区)

博多区自治協議会長連絡協議会 会長 平山 清子
(那珂南校区自治協議会)

(西区)

西区自治協議会会長会 会長 青木 敏文
(下山門校区自治協議会)

感謝状

(東区)

三苦校区自治協議会 会長 飯田 信義
奈多校区自治協議会 会長 今林 晋吉
勝馬校区自治協議会 会長 上田 信行
和白校区自治協議会 会長 花田 豊
名島校区自治協議会 会長 福永 和彦
若宮校区自治協議会 会長 藤野 敬一郎

(博多区)

席田校区自治協議会 会長 金生 誠二
春住校区自治協議会 会長 三反田 好人
博多校区大浜自治協議会 会長 田中 寛
板付北校区自治協議会 会長 永尾 成男
千代校区自治協議会 会長 古川 和良
美野島自治協議会 会長 古屋 征範
月隈校区自治協議会 会長 松尾 歳光
板付校区自治協議会 会長 山本 政敏
堅粕校区自治協議会 会長 吉村 義美

(中央区)

大名自治協議会	会長	井上 鴻一
赤坂校区自治協議会	会長	宮崎 仰一

(南区)

大楠校区自治協議会	会長	石井 大三
東若久校区自治協議会	会長	怡土 弘之
長住校区自治協議会	会長	桑田 勝三郎
玉川校区自治協議会	会長	佐藤 久人
弥永西校区自治協議会	会長	中橋 庸介
塩原校区自治協議会	会長	古屋 明彦
横手校区自治協議会	会長	村中 次男

(城南区)

南片江校区自治協議会	会長	佐土原 宏典
長尾校区自治協議会	会長	津留崎 利雄

(早良区)

有田校区自治協議会	会長	荒岡 晴信
西新校区自治協議会	会長	内田 重光
原西校区自治協議会	会長	金子 滋
飯原校区自治協議会	会長	古賀 俊二
百道校区自治協議会	会長	佐藤 幸市
百道浜校区自治協議会	会長	柴崎 正廣
入部校区自治協議会	会長	清水 泰輔
賀茂校区自治協議会	会長	高田 勲
早良校区自治協議会	会長	中山 好道
田村校区自治協議会	会長	三宅 邦彦
曲淵校区自治協議会	会長	結城 輝昭
原校区自治協議会	会長	吉安 弘一

(西 区)

玄	界	校	区	自	治	協	議	会	会	上	田	永	
西	陵	校	区	自	治	協	議	会	会	江	口	安	德
玄	洋	校	区	自	治	協	議	会	会	河	野	宏	康
北	崎	校	区	自	治	協	議	会	会	柴	田	敏	昭
福	重	校	区	自	治	協	議	会	会	豊	嶋	利	夫
元	岡	校	区	自	治	協	議	会	会	藤	野	忠	勝
愛	宕	浜	校	区	自	治	協	議	会	三	島	秀	作

地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈者名簿

(敬称略 50音順)

株式会社飛鳥

株式会社穴吹ハウジングサービス

飯倉商店街連盟

株式会社海山組

小笹商店会

オロシウムFUKUOKA・福岡流通センター地域活性化部会

上長尾名店街

九州電力株式会社 福岡支社

株式会社香栄社

社会福祉法人さわら福社会 特別養護老人ホーム マナハウス

有限会社四島組

社会福祉法人仁愛会 仁愛保育園

竹下商店街振興組合

国家公務員共済組合連合会 千早病院

社会福祉法人天寿会 特別養護老人ホーム 梅光園

天神西通り発展会

唐人町商店街振興組合

独立行政法人都市再生機構 九州支社

株式会社内藤工務店

長住大通り商店街

名島商工連合会

株式会社西日本シティ銀行

株式会社西日本シティ銀行 小笹支店

野芥南商工連合

特定医療法人財団 博愛会

花みずき通り商店会

有限会社原竹電工

ビッグエコー小田部店 (株式会社九州第一興商)

株式会社福岡銀行

株式会社福岡銀行 笹丘支店
医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院
株式会社ふくや
株式会社マイマイ
三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所
株式会社三好不動産
医療法人沢江堂
株式会社山口商事 (エムザス)
医療法人和仁会 東福岡和仁会病院

活動事例発表

地域子ども健全育成ネットワーク「のびのび美野島」

博多区 美野島自治協議会 会長 桜田 明夫
のびのび美野島 会長 谷川 久子
のびのび美野島 事務局長 緒方 隆二

校区の特徴

- ・美野島地区は、都心の博多駅にほど近く、西側を那珂川、東側を JR 鹿児島本線が挟み、百年橋通りを境に南北に分かれている。
- ・北側は美野島商店街をはじめ、古くからの路地や懐かしい町並みが残る地域である。
- ・那珂川の河川・遊歩道が整備されている南側には、河川に面した美野島南公園を中心とした水辺空間と住宅の調和したファミリータイプのマンションが建ち並び、夏は同公園において住民交流会灯明納涼祭が行われるなど魅力に溢れた町である。
- ・平成 27 年 4 月には、美野島小学校跡地に住吉小中連携校が開校し、文教地区として教育環境も充実した。
- ・近年は、交通の利便性などからワンルームタイプの住宅建設が続いており、人口・世帯数とも増加傾向にある。

【校区の現況】（平成 28 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
10,959 人	6,961 世帯	1.6 人	1,696 人（15.5%）

活動について

1. 概要

- ・地域の未来を担う子どもたちは地域の宝であり、「地域の子どもは地域で育てよう」を合言葉に活動を開始。
- ・のびのび美野島の事業を通じて異年齢間の交流、地域の様々な大人とのふれあいの中から、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育てていくとともに、さらには子どもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせる地域社会を目指している。

2. きっかけ

- ・平成 10 年、市民局（現こども未来局）子ども部子ども育成課の『地域子ども育成事業』モデル地区に指定され、「地域の子どもたちが育っていく環境として、わたしたちの町を眺めたとき、美野島はどんな状況にあるのか。大人が子どもたちにしてやれることは何か。地域の人々とのふれあいと子どもたちを『育む』場である美野島を共に考えていこう。」という地域の子どもたちへの思いから、自治連合会長、公民館長、小中学校長・PTA 会長、民生委員、各団体代表等 13 人で構成される「子どもを育む会」が発足した。

3. 経緯

- ・平成 10 年度：美野島が福岡市の『地域子ども育成事業』モデル地区に指定され、仮称「子どもを育む会」発足。毎月 1 回の定例会を開催し、主旨の周知と共通理解を深め、現状把握や意見交換を進めた。
- ・平成 11 年度：当時の美野島小学校の児童を対象にアンケート調査を実施し「小学生が何をして過ごしているか？」など子どもの生活実態やニーズを調査。同時に会の名称を募集し、「のびのび美野島」と決定した。当初は公民館・小学校・子ども会育成会等の行事にのびのび美野島のメンバーが参加・協力(ウォークラリー, 野外教室, 餅つき大会, 子ども JR80 円の旅等)。
- ・平成 12 年度：公民館・小学校・子ども会育成会等の行事にのびのび美野島のメンバーが参加・協力(実質, 共催の方向へ), また主催事業として昔の遊び・お楽しみ会・6 年生お別れ会を実施。広報紙「のびのび美野島」発行。お父さんのためのアウトドア教室『パパムート』発足。会の構成員が 21 人となる。
- ・平成 13 年度：構成員が 26 人となり, のびのび美野島として主催行事を本格的に取り組む。その目的は「指導者の育成・地域を知り伝承する・大人と子どもがふれあい協力者を増やす」として, 主催行事の対象年代を明確にし, それぞれの年代にあった行事の企画と指導者の育成を進めた。
- ・平成 14 年度：「福岡市青少年健全育成奨励賞」を受賞。
- ・平成 17 年度：「福岡市思いやりの心推進モデル地区」の指定を受ける。
「お楽しみ会」に福岡市長来訪。昔の遊び, お茶でおもてなしを行う。
- ・平成 24 年度：美野島小・住吉小の統合。住吉の子どもたちが行事に参加。
- ・平成 27 年度：「福岡市青少年健全育成奨励賞」を受賞。

4. 成果

- ・子どもたちが心豊かで健やかに成長していくよう, 地域各団体, 住吉小・中学校・PTA, 保育園, 行政が連携を密にし, 子どもたち同士の交流, またそれぞれの年齢に応じた多彩な事業を展開し, 子ども健全育成ネットワークとして地域に定着している。
- ・何よりも, 子どもに関係する団体だけではなく, 他の各種団体がそれぞれの立場で子どもを育む環境を考えていることは大きな特色といえる。

5. 苦労した点

- ・事業を進めていく上で, 様々な方や団体の意見・協力があり, 特別苦労したことはない。
- ・しかしながら, 長く続ける過程でマンネリ化など感じる事があったが, 構成メンバーの世代交代がうまくできていることから行事の見直しなどを継続的に進めている。今後, 新企画の策定等に際しては, 「新しい視点から現在っ子のニーズに合い, マッチしたものを行事の中にもどのように取り入れていくのか」など, 検討課題はいろいろ出てくると思われる。

6. 工夫した点

- ・行事のマンネリ化を避けるために, 内容に創意工夫をこらすとともに, 中学生に地域スタッフとして参加してもらい, 子どもたちとの交流がより深まるよう努めている。

- ・また、「おひなまつり」などでは、子どもたちと地域のお年寄りの方々が「カルタ取り」や「昔あそび」などを通して、楽しいふれあいの時間を過ごせるようにしている。

7. 今後の目標・課題

- ・地域指導者や支援者の育成と拡大を図るとともに、地域教育力の向上に努める。
- ・また、これからも地域が子どもたちにとって社会性や自律性を身につける「場」として、責任・役割を果たせるよう家庭や学校、関係者と連携・協力し、子どもたちの健全育成に取り組んでいく。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・大人が子どもをしっかり見守り、支えることで、子どもは、成長に応じて社会に参加し責任を果たすことを学んでいく。
- ・地域の多様な大人とふれあうことにより、子どもの社会性や公共性、コミュニケーション能力の向上につながる。
- ・地域で子どもを育てることは、地域の活性化につながるとともに、次世代の担い手づくりにもなります。

中学生との座談会



お楽しみ会 (アビスパ福岡の選手とふれあいサッカー)



おひなまつり会



魚釣り大会



講演会



防災フェスタ in 平尾

中央区 平尾校区自治連合会

平尾校区男女共同参画協議会

会長 小山 毅

会長 井川 春奈

校区の特徴

- ・平尾校区は、中央区の南端に位置し、東は西鉄大牟田線、北は城南線、西は動物園、南は筑肥新道に囲まれ、都心に近く中心部が緑豊かな丘陵地になっており、全体的に閑静な住宅地である。
- ・校区内には野村望東尼が住んでいた平尾山荘や福岡市動物園、南公園などもあり、このような住環境の良さも手伝い、最近マンションの増加に伴い、人口は、中央区の校区・地区の中で最も多く、平尾小学校の児童数は市内で6番目に多くなっている。

【校区の現況】（平成28年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
23,367人	13,060世帯	1.8人	3,679人（15.7%）

活動について

1. 概要

- ・平成27年8月23日、平尾公民館において、平尾の危機管理部と男女共同参画協議会が主催で、楽しみながら防災の知識を学べる機会を作ることを目的として、体験型の防災教室を開催した。
- ・内容は面識のない校区住民の方同士でも気軽に声を掛け合いながら楽しめるような体験教室4種類、カードゲーム1種類、防災食の展示などを行った。

2. きっかけ

- ・校区の男女共同参画協議会から校区の危機管理部へ、老若男女問わず誰でも気軽に参加できる地域活動でありながら防災の知識を学べるような事業を共同で実践できないだろうかとの相談があり、中央区役所総務課などとも協議して、男女や世代を問わず、お一人でも気軽に参加できる体験型の防災教室を実施することとなった。

3. 経緯

- ・男女共同参画協議会、危機管理部、中央区総務課の三者で協議を重ね、防災に関する様々なメニューを色々と試した結果、体験教室4種、カードゲーム1種を選定して実施した。当日は中央消防署、福岡管区气象台、博多あん・あんリーダー会及び江崎グリコ(株)などの協力により、公民館の2階、3階を使用することで、スムーズな事業の実施となった。

4. 成果

- ・お一人で参加された方、親子で参加された方、仲間と参加された方、みなさんそれぞれ楽しんで各ブースを体験していただいた。面識のない住民の方同士が隣り合って、一緒にカードゲームをしたりする光景も見られた。

5. 苦労した点

- ・初めて行う事業だったので、参加者と運営者どちらの側も人を集めることと、この事業を広く校区にPRするための手段について苦労した。

6. 工夫した点

- ・公民館の各部屋のどこでどのような教室を開くのか、人員の配置（特に男女の配分も平均化した）、各教室の時間配分などに気を付けて進化した。

7. 今後の目標・課題

- ・今後の目標としては、このような体験型の防災教室を継続することにより、校区内で一人でも多くの人の防災意識を高めていくことが出来ればと考える。
- ・課題としては、校区の実情に沿った事業内容を提案していくことと、それを効率よくPRすること、さらには、地域活動に参加したいけどきっかけがないと思っている住民の方により参加していただきやすくするための工夫が必要だと考える。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・これまでの災害時対応の報道などでも知られているように、災害時の対応は、平常時の地域のコミュニケーション力がいかに重要であるかが問われているように思う。
- ・まずは校区内で防災をテーマにした活動を行いながら意識を共有し、その先には、周辺校区との連携も重要であると考えます。

防災フェスタのポスター



防災フェスタ
IN 平尾 楽しく体験しながら
防災について学ぼう!

雲の作り方を
実験しよう!

新聞紙で
スリッパや
食器を作ろう

毛布や布で
応急担架を
作ろう

いろんな
ロープの結び方
を学ぼう

防災食展示
いまどきの防災
食を紹介します

防災カードゲーム
手順や動作をつな
ぎ合わせます

日時 2015年8月23日(日) 13時~16時
会場 平尾公民館 収容人数に限りがあります
主催 平尾校区 危機管理協会・男女共同参画協議会
共催 中央区役所
協力団体 中央消防署・福岡区気象台・博多あん・あんリーダー会

小学4年生以上対象/保護者・ご家族の方もぜひご参加ください
問合せ 自治会事務局 525-1957 (火・木) 12-16時 (土) 9-12時

来て!
見て!
試してみよう!



防災フェスタのようす



高齢者が安心して暮らせるまちづくり

南 区 弥永校区自治協議会 会 長 新堂 末幸
弥永校区社会福祉協議会 会 長 大島 好勝

校区の特徴

- ・南区の南東部に位置し春日市に隣接する校区である。
- ・校区は、柳瀬町・日佐町・弥永団地の3地区で構成している。
- ・昭和41～45年度に建設された弥永団地(5階建・47棟)は、平成25年度から中高層へ建替えが行われている。
- ・平成26年12月から、高齢化率が南区内で最も高くなっている。

【校区の現況】(平成28年9月末現在)

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口(割合)
6,224人	3,152世帯	2.0人	2,059人(33.1%)

活動について

1. 概要

- ・南区内で高齢化率が最も高くなったことから、商業施設の広場や団地集会所等で地域カフェを開催したり、徘徊高齢者の支援体制づくりを行うなど、高齢者も認知症の人もその家族も、誰もが安心して暮らせるまちづくりを行っている。

2. きっかけ

- ・平成26年12月、高齢化率が南区内で最も高くなったことを契機に、高齢者に関する話題が様々な会合で取りざたされるようになった。また、社会福祉協議会の役員会においても、「何とかせないかん。」という思いで高齢者支援について検討を始めた。

3. 経緯

- ・南区の「おもいやりネットワーク」指定による支援開始。
- ・校区社協役員会に自治協議会長・公民館等を交えた「高齢者について考える」話し合いを実施。高齢者認知症対策が急務であることを確認した。
- ・目指す方向性、目標について共通認識を持つための校区全体研修を2回実施。
- ・「地域で認知症高齢者を支える」という視点で、認知症サポーター養成講座を実施(地域、小・中学校)。
- ・「誰もが気軽に交流できる場」で「地域のつながり」「ご近所の知り合い」ができる場所として「ほほえみカフェ」を開催。
- ・徘徊高齢者を校区で捜索支援する体制づくり(写真プロフィールの登録・情報公開、徘徊対応マニュアル作成、徘徊声かけ訓練実施)

4. 成果

- ・ふれあいネットワーク活動者向けと、あまり関わりがない若い世代の住民向け研修会を実施して、課題や役割、目指す方向・目標について共通の認識を持つことができた。
- ・目標達成の気運が高まり、組織の一体感が醸成されつつある。
- ・若い世代の意識の向上につながった。
- ・ほほえみカフェを高齢者福祉施設で行ったことで、施設と地域がつながるきっかけの場となった。

5. 苦労した点

- ・高齢者支援に実感のない人に対して動機づけを行うこと。
- ・自分たちの取り組みに関する思いを共有すること。
- ・認知症をはじめとする高齢者に関する情報収集。

6. 工夫した点

- ・ほほえみカフェを校区の真ん中にある商業施設の広場や空き店舗、公民館の駐車場、町内の集会所、特別養護老人ホームなど様々な場所で開催することで、その会場周辺の方の参加があり、毎回違う参加者が来られることにつながった。

7. 今後の目標・課題

- ・ほほえみカフェの充実を図っていきたい。
- ・校区の各種団体や校区内の福祉施設等と協力して、10月に徘徊高齢者声かけ訓練を行った。今後、徘徊搜索模擬訓練を実施したい。
- ・校区内にある福祉施設等とのネットワークを構築し連携強化をさらに図りたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・地域における見守り・支え合いについては、日常生活の中にふれあいの場があり、これが原点であると考えている。地域カフェなどにより地域の輪を広げていくことに終わりはなく、エンドレスの活動と痛感している。
- ・走る自転車が倒れないように左右のペダルを踏み続けなければならないと考えている。

校区の取り組み

ほほえみカフェ

地域の人をつながりをつくる
「きっかけ」の場

【特徴】

- 様々な場所で開催(幅広い住民の参加)
- 施設・ケアマネ等の協力で、認知症の高齢者や被介護者も参加
- プログラムはなくおしゃべり中心
- 地域活動を紹介するPR冊子や、脳トレのプリント等を参加者へ配布



スーパー



パン屋



公民館前



高齢者施設(特養)



空き店舗



町内集会所

校区の取り組み

小学校・中学校での 認知症サポーター養成講座



- ・校長にも理解を働きかけ開催。
- ・子ども達も「サポーター」

校区の取り組み

徘徊高齢者の捜索支援体制づくり

校区で協力して、安心して徘徊できる弥永校区を目指す。



※日頃から公民館で掲示し、写真・名前を公開。(同意を得た上で)

校区の取り組み

徘徊者声かけ訓練

平成28年10月、認知症徘徊高齢者への声かけ対応を地域の住民・商店に体験してもらう訓練を実施。



地域(校区)へ出での訓練であるため、参加した関係団体だけでなく、広く一般住民へのPR・啓発にもなる

商店街と自治協議会の連携による地域情報冊子の作成

飯倉商店街連盟 理事長 高取 弘夫
飯倉校区自治協議会 会長 橋本 幹生
飯倉校区自治協議会 事務局長 笠松 直樹

商店街概要

- ・国道 263 号線沿いの小売店舗が集まり昭和 43 年に設立された地域型商店街。
- ・会員店舗は 31 店舗で、業種としては小売業を中心に、サービス業、飲食業で構成されており、近年は高齢化が進み、医療機関が増え始めている。
- ・かつては商店街主催で夏祭りを実施するなど地域に賑わいをもたらしていたが、店主の高齢化等が原因で、活動が下火となっている。

活動について

1. 概要

- ・商店街情報（商店街の位置図、個店情報）と校区情報（校区行事、校区近況など）を掲載した地域情報冊子「よかまち飯倉」の作成と全世帯（約 4,500 世帯）配付。

2. 経緯

- ・平成 27 年度に福岡市（経済観光文化局）が主催する「商店街と自治協議会との意見交換会」に参加し、互いが抱える課題や問題点を出し合う中で、校区内での認知度を向上させたい商店街側と、校区体育祭にプログラム付広告紙として校区商店にお願いしている広告費（実質協賛金）の活用方法を見直したい自治協議会側のニーズがマッチングした。

3. 成果

- ・配付後、まだ 3 ヶ月のため目に見える大きな成果はないが....。
- ・商店街で地域情報誌「よかまち飯倉」を広くアピールしようという動きが見えた。
- ・以前は、校区体育祭は 1 日で終了のため、体育祭が終わるとプログラム付広告紙はすぐに廃棄されていたものが、一年間活用できる冊子となったために、会員内外から好評である。
- ・掲載していない校区の商店より、すでに来年の予約を望む声が数件聞かれる。

4. 今後の課題

- ・商店街と自治協議会で協賛店舗を勧誘するチームを複数編成して、早い段階からエリア毎に手分けして地域情報冊子への協力を周知することで、会員の増加に繋げていく。
また、校区外の大型商店・企業にも声かけを行い、将来的な事業展開を検討していく。
更に、商店街では、単身高齢世帯をはじめ、日常の買い物にお困りの地域の高齢者向けに、個店の宅配情報等を集約したページの編成などの検討、自治協議会でも、より校区活動の認知度を高める内容を編集するなどして本冊子の利便性を向上させる。

「飯倉よかまち～お役立ち商店マップ2016～」の軌跡

【商店街と自治協議会の意見交換会開催（福岡市主催） 1回目（H27.8.5） 2回目（H27.9.15）】



校区住民にもっと商店街のことを知って欲しい。買い物に来て欲しい。（商店街）

毎年、校区の運動会に商店街から協賛してもらっているけど、運動会が終わるとプログラムが捨てられてしまって、申し訳ない。解決案を検討しているが、予算が.....。（自治協議会）



一年間通して使える商店街情報と校区情報を掲載した地域情報誌を作成してみよう！（商店街・自治協議会）



冊子づくり会議開催
（H28.3～5 計4回）



完成（H28.6）

かなやまカフェ「たまり場」 ～お子様連れからお年寄りまで、気軽に集える場所～

城南区 金山校区自治協議会 会長 田中 博
金山校区社会福祉協議会 会長 藤田 治子

校区の特徴

- ・城南区のほぼ中央に位置し、地下鉄七隈線の金山駅がある。
- ・金山と呼ばれた小高い丘からなる自然環境に恵まれた緑豊かな丘陵地帯を中心に広がっており、校区の中心にある小学校からは金山の町並みや油山が一望できる。
- ・住みよい環境のもと、閑静な住宅街である友丘や松山の町内と、地形の特徴を生かした金山団地で校区が形成されている。
- ・城南区内で、65歳以上の高齢化率が30.5%と最も高い校区である。

【校区の現況】（平成28年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
7,249人	3,894世帯	1.9人	2,211人（30.5%）

活動について

1. 概要

- ・お子様連れからお年寄りまで、気軽に集える場所を提供するため、社会福祉協議会、自治協議会と公民館が協力し年6回カフェを開催している。スタッフとして地域のボランティアが運営にあっている。
- ・カフェの内容は、無料の茶菓子や有料の昼食、授産施設によるパンや野菜の販売、中古本の交換会、保健師による健康相談やいきいきセンターによる生活相談、学生による落語や演奏会などを実施している。

2. きっかけ

- ・平成24年度に行った、超高齢者社会の中で多世代での交流や事業を考える「シニアアシスト支援事業（おたがいさまワークショップ）」講座がきっかけ。
- ・この講座の中で、様々なアイデアが生まれ、「集まる楽しさを実感できる場所をつくろう」と実施することになった。

3. 経緯

- ・平成25年度に、アイデアを試すために「おためしカフェ」を2回開催したところ、延べ160人の来場があった。アンケート調査で、約85%の人が「カフェのような場が地域に必要」との結果を受けて、平成26年度からカフェ「たまり場」として年6回開催することとなった。

4. 成果

- ・公民館を利用したことがない人の参加もあり，校区事業や公民館講座の参加者が増加してきている。

5. 苦労した点

- ・昼食の準備などでボランティアの負担が大きく，若い担い手探しに苦慮している。

6. 工夫した点

- ・楽しみを増やすための工夫～やってみたいこと～の実現。
→ドット投票で人気のあるものを実現（簡単な昼食，落語や演奏会など）。
- ・楽しみを増やすための工夫～これがあったら～の実現。
→興味・関心に合わせて実現（夏休みこども勉強会，歯と健康の相談など）。
- ・参加者を増やすための工夫（スタンプカードの配布など）。
- ・心地よいカフェを続けるための工夫（カフェ後の振り返り会やボランティア会議）。

7. 今後の目標・課題

- ・住民が出会い・集い，そして，「交流・ふれあい」に発展する場となるよう，このカフェ「たまり場」を先長く今後も継続していくこと。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・集う場所の提供は意外と簡単に始められます。終了後の反省や気づきなどをその都度ボランティアで話し合い，次回に生かすことが大切です。

古本の交換会とキッズスペース



授産施設によるパンの販売



福岡大学マンドリンクラブの演奏会



カフェ看板



できることから少しずつ～校区に広がる女性の視点～

早良区 早良校区自治協議会 会長 横江 幸夫
早良校区環境衛生組合連合会 会長 熊家 勝
早良校区環境女性サミット実行委員会 会長 池田 勝代

校区の特徴

- ・昭和 59 年に、内野小学校の大規模校解消のため、早良小学校が開校したことに伴い誕生。長峰、平尾新町、早良西町、早良北町、明水ヶ丘、早良陽光台の 6 町内で構成されている。
- ・面積は、2.67 ㎥と早良区南部の校区としては狭いが、南側を脊振山系に囲まれ、東側には室見川の支流である八丁川が流れる自然豊かな校区である。
- ・人口は少なく高齢化率も 30%を超えているため、運動会や人権のつどい、音楽発表会を校区と小学校が合同で行うなど、住民同士の交流が持てるような工夫をしている。

【校区の現況】（平成 28 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
3,778 人	1,627 世帯	2.3 人	1,269 人（33.6%）

活動について

1. 概要

- ・フリーマーケットや環境施設の見学会などをはじめ、夏祭りや運動会など様々な校区行事に主要スタッフとして参加。女性ならではの細やかさを活かして活動している。

2. きっかけ

- ・平成 19 年に環境推進員制度が廃止されたことをきっかけに、当時の環境推進員（現・環境衛生連合会会長）の「家庭という身近な場所での環境衛生に関しては、女性に主導権があることが多い。女性で何かやってみないか。」という働きかけにより、平成 20 年に発足。

3. 経緯

- ・発足当時、民生・児童委員や PTA 会長など、地域の女性リーダー 9 人が集まって話し合い、「できることから始めよう」と活動を開始。
- ・最初は、「物を無駄にしない」という視点でフリーマーケットを開催。そこから、環境、食育、健康など、校区他団体と連携しながら活動の場を広げ、様々な校区行事に参加していくことになる。

4. 成果

- ・フリーマーケットや環境関連施設の見学会などを通じ、住民の環境・美化に対する意識が向上している。
- ・ごみ減量の取り組みとして始めた、生ごみコンポストでできた堆肥を使って野菜を作り、校区行事の料理等に利用したりしている。

- ・また、手作りの廃油石鹸やゴキブリ団子はフリーマーケットなどで好評を得ている。

5. 苦労した点

- ・女性の力が発揮できるところを、みんなで話し合いながら少しずつ広げている。

6. 工夫した点

- ・校区内で野菜を作っている方に、フリーマーケットへの出店を依頼した。
- ・また、小学校の読み聞かせの際にフリーマーケットのチラシを配ったり、フリーマーケット会場に地域の方が作った模型列車を走らせるなどして、子どもを呼び込む工夫をした。

7. 今後の目標・課題

- ・他校区にも、こうした女性が活躍できる団体が広がっていくとうれしい。
- ・お互いに交流や意見交換をしながら、もっと地域がよくなるような活動を続けていきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・地域活動は、無理なく楽しく「できることから少しずつ」！

フリーマーケットの様子



環境女性サミットメンバー



フリーマーケット開催チラシ(平成27年度)

フリーマーケット開催

模型列車も走らせます。

6月28日(日)
10:30~
早良公民館 館内

採れたて野菜
・箱・廃油石鹸
・衣類
・日用品
・エコバッグ

焼きそば
・かしわ飯
・コーン
・フランクフルト
・ホットドック
など

みんなでワクワク!
あそびにおいでよ!

主催: 校区環境衛生連合会・環境女性サミット実行委員会
共催: 早良公民館

コミュニティの基礎体力づくり～大学、企業と連携した取組み～

独立行政法人 都市再生機構

団地マネージャー（コミュニティ活性化担当） 中村 直寿

企業概要

【名称】	独立行政法人 都市再生機構 (URBAN RENAISSANCE AGENCY)	【設立】	平成 16 年 7 月 1 日
【所在地】	神奈川県横浜市中区本町 6-50-1		
【資本金】	1 兆 611 億円（平成 27 年 3 月末現在）		
【設立根拠法】	独立行政法人通則法，独立行政法人都市再生機構法		
【職員数】	3,196 人（常勤職員数，平成 28 年 4 月 1 日現在）		
【ホームページ】	http://www.ur-net.go.jp		
【事業概要】	都市再生，住宅管理，災害復興，ニュータウン事業等		

活動について

1. 概要

- ・福岡女子大，中村学園大，福岡大と地域の活性化等を目的に連携協定を締結，それ以外にも各大学と連携，関連したイベントの企画，実施。
(金山団地：健康栄養教室・健康体操，星の原団地：地域活性支援塾 等)
- ・周辺団地にて，いわゆる子ども食堂的なイベントを開催。
(香椎若葉団地：わかばガーデン，星の原団地：星の原やすらぎ食堂)
⇒ 企業とも連携し，食材等の提供を受ける。
- ・団地自治会主催のカフェにおいて，イベントの企画，実施。
(金山団地：振り込め詐欺防止勉強会，星の原団地：そば打ち実演 等)
- ・団地コミュニティ活性化のため，学生シェア用住戸の提供（香椎若葉団地，堤団地）。
- ・添田町道の駅と連携して，高齢者の買い物支援，交流促進（星の原，金山団地）。

2. 経緯

- ・UR の団地における高齢化・単身居住の増等により生じる課題を解決するため，各大学と連携協定を締結し，また団地町内会及び各企業・団体と協力し，高齢者，子育て層，子ども等向けのイベント等を実施する等，各団地の多世代交流や買い物支援等，コミュニティ活性化に取り組むこととなった。

3. 成果

- ・各方面の協力を得ながら，年々増加する高齢者はもちろん，子どもを持つ親世代等も含めて，団地コミュニティの活性化を進めている。主体となる UR 団地の自治会の多世代交流に関する活動は拡がりを見せており，また，企業等のコミュニティ活性化への関心を向けることができている。

4. 今後の課題

- ・関係する団体等（町内会，自治会，区，社協他）との情報共有，課題共有
- ・企画したイベント等を定期的に実施し，コミュニティに根付かせるための施策。
- ・イベント等に参加する高齢者が固定化し，また男性の参加が少ないため，参加を促す取組み。

【金山団地（城南区）で中村学園大学による健康栄養教室開催】



【香椎若葉団地（東区）の福岡女子大による孤食防止等の「わかばガーデン」】



【星の原団地（早良区）の「星の原カフェ」に合わせ，福岡大学マンドリンクラブの演奏会】



【堤団地（城南区）に居住中の福岡大学の留学生等と団地にお住まいの方々との交流会】



「星の原やすらぎ食堂」（早良区星の原団地）第二回目開催の様子

～10月15日（土）午後5時から7時まで開催～

◎当日は、午前11時～午後3時まで「星の原カフェ」開催



今回は「福岡大学マンドリンクラブ」の演奏会あり

◎カフェ開催に合わせて「添田町の道の駅」の野菜等の出張販売あり



◎午後5時から団地集会所にて「星の原やすらぎ食堂」開催



今回のメニューはカレー（100食分用意）



御代わり、無料



70名強の来場



小学生18名・中学生4名参加



今回も九州 TSUTAYA の古本提供



食材（米10kg）提供「添田町道の駅」



洋室は古本図書館

みんなで踊って深める絆

西 区 姪浜校区自治協議会

姪浜校区伝統文化推進委員会

会 長 高木 征彌

会 長 尾石 静雄

校区の特徴

- ・姪浜校区は、自然豊かな室見川、愛宕山に隣接し、明治以降は沿岸漁業、炭鉱などで発展を遂げてきた市内でも歴史的に古い校区だったが、地下鉄開通や埋め立てに伴う急速な人口の増加等により、内浜・愛宕・愛宕浜・姪北に校区が分割されてきた。
- ・現在は、202号線バイパスや西区における交通の要衝である地下鉄姪浜駅を挟んで南北に長い地域となり、西側は西区役所や保健所等行政サービス施設が集積したエリアと隣接しており、西区の玄関口として発展を続けている。
- ・特に、姪浜駅南側は土地区画整理事業により店舗や高層マンションが建ち並び、新旧混在した町となり、人口・世帯数とも西区で上位を占めている。

【校区の現況】（平成28年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たりの人員	65歳以上人口（割合）
14,757人	6,861世帯	2.2人	2,023人（13.7%）

活動について

1. 概要

- (1) 子ども神輿を製作して自治協議会のふるさと創生夏祭りで毎年披露。
- (2) 校旗とハッピーを製作して“楽舞隊”（姪浜踊り）を創設。
地域の子どもたちと親を対象に参加者を募り、よさこい黒田武士とエイサー炭坑節の踊りの実技指導を行い、5月のどんたく祭り、7月の姪浜校区ふるさと創生夏祭り、10月の住吉神社秋祭り、3月の西区環境フェスタ、ふく恋アジア祭り等に参加して地域への周知を図る。

2. きっかけ

- ・校区分離が繰り返された結果、神社仏閣を含めて伝統的文化がなくなってしまった。
- ・また、姪浜駅南側は高層住宅が増え新旧入り混じった街となり、住民間の関係が希薄になったため、校区独自の伝統文化的なものを創造することで、連携と絆をより一層深め、育てることが出来ることを確信し、伝統文化創造事業として取り組んだ。

3. 経緯

- (1) 平成24年7月12日伝統文化普及推進委員会（仮称）発足
 - 1) 町内会長、各種団体、公民館関係から16名の委員選出。（校区シンボルマーク選定委員兼務。）
 - 2) 自治協だよりと公民館だよりによる、①シンボルマークの公募、②こども神輿製作依頼、③踊り“楽舞隊”の指導者及び隊員募集。

- 3) ①シンボルマークを校区旗として製作, ②こども神輿及び楽舞隊のハッピー製作, ③踊り練習。
 - 4) 平成 25 年 5 月 3 日のどんたく祭りからデビュー。
- (2) 平成 26 年 4 月 1 日自治協の団体として伝統文化推進委員会としてスタート。

4. 成果

- ・平成 24 年度から取り組んで 5 年目になり, 校区はもとより西区でも, 認知してもらっており, また, 小学校では 4 年生全員が授業の一環として体育会で演舞している。
- ・なお, 平成 28 年度自治協主催の姪浜校区ふるさと創生夏祭りでは, 総勢 50 名の親子隊員が見事な演舞を披露した。
- ・今回の事業は自治協議会と公民館, 学校, 地域が一体となって取り組んだ素晴らしい成果だと確信している。

5. 苦労した点

- (1) 最初は楽舞隊々員を募集しても隊員が集まらず, 楽舞隊そのものを知らない人が多く, 人集めに苦労した。
- (2) 子ども達が中学生になると部活があり, 踊りの練習もさることながら, 演舞発表時も参加できない生徒がいて補充に苦労した。
- (3) 隊員メンバーのスケジュール等で全員揃うことがなく, 毎回変更になるため, 演舞発表時はフォーメーションの変更を余儀なくされる。

6. 工夫した点

- (1) 伝統文化推進委員会には, 自治町内会長全員と関係団体から委員を選出し, 継続的な活動が出来るようにした。
- (2) 楽舞隊(新姪浜踊り)用ハッピーときらびやかな衣装を製作して, 隊員のやる気も高め, 新隊員募集にも魅力ある団体とした。
- (3) 練習の成果である発表の機会をできるだけ多くとった。
- (4) 発表会での楽舞隊の演舞をビデオ撮影して, 公民館で放映し, 伝統文化活動として校区の皆さんに広報している。

7. 今後の目標・課題

- (1) 楽舞隊としての踊りを通して伝統文化を継続, 継承して行くためには, 成人を含む若年層の多くの方々の参加が不可欠であること。
- (2) 運営スタッフ(協力者)を確保すること。
- (3) 公民館と自治協議会が一体となって活動していくこと。併せて後任の人材を育成すること。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・ 姪浜地区は急速な発展を遂げ新旧入り混じった街となって、住民間の関係が希薄になりつつあるため、神輿や楽舞隊の踊りを通して連携及び絆を深めようと活動を盛上げてきました。
- ・ そしてこの神輿や踊りが今後 10 年 20 年という歳月の中で、校区住民に伝統文化として根付き愛され、誇りとなるよう願っています。
- ・ 更に現在の子どもたちが親となり、孫の代にも記憶が共有できるよう心から願っています。今回のこの発表が皆様方に少しでも参考になれば幸甚です。

■ 姪浜伝統文化推進委員会 “楽舞隊” 活動写真



地域社会のために、できること

株式会社 西日本シティ銀行 地域振興部
部次長 徳留 正幸

企業概要

シンボルマーク



シンボルマークには、西日本シティ銀行がお客さま・株主・社会とともに成長し、喜びをわかちあい、地域に根ざした花を咲かせていくという願いを込めました。上部の花びらはそれぞれがステークホルダー(個人や法人のお客さま、株主、地域社会、行員など)を表し、下部の人間像はそれらを力強く支えています。西日本シティ銀行の姿勢と喜びを表現しています。また、全体をユニークで独自性の高いフリーハンドで図案化し、躍動感や人間的優しさを表現しています。コーポレートカラーは、あたたかい人間性や輝く太陽を表すオレンジと、洗練性や先進性を感じさせるブルーの2色を使用しています。

経営ビジョン

経営理念

西日本シティ銀行は、高い志と誇りを持って時代の変化に適応し、お客さまとともに成長する“九州 No.1”バンクを目指します。

1. お客さまに一番近い

お客さまに一番近い銀行として、誠実に対応し、圧倒的に支持される銀行をめざします。

2. 地域に貢献する

健全経営を基本に、地域に貢献し、積極的に社会的責任を果たすことで広く信頼される銀行をめざします。

3. 期待に応える人づくり

あたたかな心とチャレンジ精神を持ち、自由闊達で積極果敢に行動する人づくりに努めます。

行動憲章

1. 心がある

私たちは、いつもお客さまの身になって、丁寧に対応し、真摯にご相談に取り組みます。

2. 情熱がある

私たちは、いつもお客さまの声に、熱く行動し、チャレンジし、スピーディにお応えします。

3. 夢がある

私たちは、いつもお客さまの期待をこえた、新しく、価値のある提案をお届けします。

ブランドスローガン

ココロがある。コタエがある。

主な活動概要

① 地域社会への知的貢献活動

小中高生向け金融経済教育のオリジナル教材を作成したほか、職場体験の受入や学校への講師派遣など

② 地域との共栄

博多どんたく港まつりをはじめ、地域行事（お祭り・イベント等）への積極的参加を通して地域に密着した活動を実施

営業店内に「地域情報掲示版」を設置し、地域の情報を積極的に発信するほか、コミュニティスペースをロビー展やコンサート、発表会等の場として地域に提供

③ 歴史・文化活動への取組み

伝統工芸である博多人形の新しい展開や発展に寄与したイベントや「神楽・神舞」の開催、本店エントランスホールでは、毎月、クラシックコンサートの開催

④ 環境問題等への取組み

毎年 10 月を「地域のNCBクリーンデー」強化月間として、店舗の周りや地域の商店街、駅、公園など清掃ボランティア活動

上記の活動のほか、別添資料をご参照ください。

国際交流事業「交換ホームステイ」について

東 区 東箱崎校区団体協議会 会 長 馬場 公 司

校区の特徴

- ・東箱崎校区は国道 3 号線に沿った細長い校区で、面積約 100 ha、その内 43 ha、約 13 万坪を九州大学箱崎キャンパスが占めている。東側に JR 鹿児島本線、中央に西鉄貝塚線、福岡市営地下鉄箱崎線が走っており、校区のほぼ中央に貝塚駅が位置している。
- ・校区は、ほぼ全域が埋立地で、昭和 62 年箱崎校区から分離独立して発足し、今年で約 30 年になる。
- ・校区内には、3 ヶ所の大型集合住宅と、戦後、朝鮮半島に帰国するため全国から福岡に集まって来た人々の内、日本に残った人のために造られた集合住宅 2 ヶ所があり、集合住宅ごとに自治会を置いている。このほか、戸建を含む 2 町内会があり、現在、7 団体で活動している。
- ・県営高須磨団地は、東日本大地震及び福島第一原子力発電所事故の避難の福岡県の受け入れ住宅となり、最大 12 世帯の家族を受け入れ、自治会が中心となって、募金活動や生活用品の提供活動など、校区上げて避難のサポートをしてきた。現在、5 世帯の方が居住されている。
- ・また、県営高須磨団地は、外国からの留学生の受け入れ住宅にも指定されており、現在、居住世帯の約 3 分の 1 にあたる 200 世帯前後が外国人となっている。
- ・九州大学の移転に伴い、平成 25 年 2 月に「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」がとりまとめられ、平成 27 年 3 月には「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」が策定された。将来、校区面積の多くを占める九州大学の跡地利用が校区の様子を大きく変貌させる可能性がある。

【校区の現況】（平成 28 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
7,091 人	3,620 帯	2.0 人	1,398 人（19.7%）

活動について

1. 概要

- ・平成 26 年度から、韓国順天市（釜山市より 130km 西方に位置し人口 30 万人の都市）の市立東山女子中学校の生徒と箱崎中学校の生徒の交換ホームステイを行っている。
- ・平成 27 年 1 月に韓国から 3 名の女子中学生を受け入れ、8 月に日本から 3 名の生徒を派遣しました。平成 28 年は、1 月に韓国から 4 名を受け入れ、8 月に 4 名（男子 2 名、女子 2 名）を派遣している。

2. きっかけ

- ・東箱崎校区に平成 27 年まで所在した国立韓国総合教育医院（現在は博多区蔵本に移転）の元院長である金ガンスク氏が、日本在籍中の経験を基に中学生の交換ホームステイを提案。それを受けて、各クラスに 5 名前後の外国籍の生徒が在籍しているという校区の外国人に対する寛容性を鑑み、さらなる国際性の向上を目指そうと地域で企画、推進しているもの。

3. 経緯

- ・平成 26 年度から毎年、中学生の受け入れと派遣を相互に実施している。

4. 成果

- ・中学生の交換ホームステイをきっかけに市民同士の交流も実現しようとしている。
- ・平成 27 年は、当校区が毎年 3 月に実施している「健康ウォーク大会」に韓国から 20 名程の参加予定で準備を進めていたが、韓国の国政選挙に重なり実現しなかった。また、韓国順天市で 4 月開催の「順天ウォークラリー」に当校区からも参加する予定だったが、韓国体育協会の合併等で大会そのものが中止になった。
- ・しかし、校区では、市民レベルでの交流の機運が高まっている。

5. 苦勞した点

- ・ホームステイの受け入れ先は、地域・中学校を通じて公募で行ない、学校長を交え選考している。また、受け入れた家族の生徒を、韓国に派遣することとしている。
- ・第 1 回目は募集 3 名に対し、5 名の応募者があった。第 2 回は男子 2 名、女子 2 名を公募したが、女子は公募と同時に参加者を確保できた。男子は、引っ込み思案が多く、積極的に参加する事に抵抗があったようだが、その後、2 名の応募があり、決定した後は、家族共々積極的に韓国生を受け入れ、8 月派遣を楽しみにしている。

6. 工夫した点

- ・学校との連携で授業への参加をお願いしている。
- ・公民館サークルへの参加など。

7. 今後の目標・課題

- ・経費の肥大化を避ける為、派遣生徒はそれぞれ 2 名としている。
- ・付添いは、現在、責任者 1 名と通訳 1 名を付けているが、今後は、中学校の先生 1 名とし、事前に語学研修を受けて通訳も兼任をお願いすることとしている。
- ・資金調達のため、国際交流を推進する財団からの補助金に加え、今後は民間企業からも支援を受けたいと考えている。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・若い世代から隣国の異文化を感じ、今後の国際交流に深く関心を持ってほしい。

韓国への派遣の様子



韓国の学校給食
「いただきまあ〜す。」
「美味し〜い!!!」



受け入れの様子



校区での様々な取り組み

福岡市は、北は玄界灘に臨み、海の中道と糸島半島によって仕切られた博多湾を擁し、南は脊振（せぶり）山地、東は三郡（さんぐん）山地に囲まれた半月型の福岡平野に位置しています。

自然や歴史、社会環境など地域ごとに特色を持つ福岡市のコミュニティは、そこで生じる多様な地域課題に真摯に向きあい、生活を営む住民の豊かな住環境を維持し、向上するため、様々な取り組みを行っています。

福岡市では、そうした取り組みを広く市民の皆さまにお知らせし、コミュニティの活動への理解をいただくとともに、コミュニティにあっては他校区での活動を参考に、これからの取り組みのヒントにさせていただきたく、平成 21 年度から、広報紙「コミュニティ通信」の発行を始めました。

今年度は第 27、28 号を発行済みですので、ご紹介します。

福岡市

私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第27号

平成28年
4月1日発行

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。

今号のテーマは**共働**です

～地域が企業や公民館と共働で行っている取り組みについて紹介します～

中央区
当仁
校区

とうにん・ふくふくコンサート ～いつも音楽のある街～

当仁校区では、福岡市市民福祉プラザの「ふくふくホール」でコンサートを開催しています。校区内の高校等との共働により、子どもからお年寄りまで、身近に楽しめる音楽を通したまちづくりについてご紹介します。



詳しくは中面へ

今号の地域の情報 中央区:当仁校区、東区:香椎下原校区、西区:小呂校区、城南区:鳥飼校区



とうにん・ふくふくコンサート ~いつも音楽のある街~

はじめたきっかけ

福岡大学附属若葉高校の出口教諭が、校区内にある「ふくふくホール」を活用できないだろうか、と当仁校区自治協議会の木立会長に相談したところ、地域の方が気軽に足を運べて、音楽を身近に感じられるコンサートを開こうということになり、平成25年の夏、「とうにん・ふくふくコンサート~いつも音楽のある街~」がスタートしました。

コンサートに向けての準備

自治協議会の木立会長、横尾副会長、会計の篠原さん、若葉高校の出口教諭等による実行委員会で、運営や宣伝方法などを話し合います。



出口教諭 木立会長 篠原さん

コンサートの様子



これまでに、若葉高校の生徒による声楽、大阪音楽大学の金管楽器、音楽家によるピアノとフルート演奏からゴスペルまで、様々なジャンルの演奏会を開催し、平成27年12月でコンサートは22回を数えました。

工夫していること・よかったこと

気軽に参加できるよう「参加無料」とするため、演奏者と「ノーギャラ」交渉をしたり、運営にボランティアを募ったりしています。「クラシックだけど普段着で立ち寄れるコンサート」として浸透し、心待ちにしている方も増え、中高生が演奏する日は同世代も多く、まさに老若男女が集うコンサートです。



受付や案内は、ボランティアで運営しています。

この看板も手作りです！



とうにん・ふくふくコンサートへの思い (当仁校区自治協議会 木立会長より)



このコンサートを通してより一層活発な街づくりが進むことを期待しています。そして、出演者の中から世界を舞台に活躍する音楽家が生まれたら、素晴らしいですね。



東区
香椎下原
校区

地域の企業や医療法人と連携!

~祭り会場へ無料バスを運行~



「長谷ダム水がめまつり」は平成7年に、山の「命の水」に感謝し、地域文化の向上と住民相互のふれあい交流を図ることを目的に、「長谷ダム映画祭&水がめまつり」として始まりました。以来、地域の主催により毎年10月に開催され、平成28年で22回目を迎えます。ステージでの香椎下原小学校の和楽器クラブ、香椎第3中学校、香椎高校の吹奏楽部の演奏など、香椎下原校区にかかわりのあるみんなで盛り上げるお祭りです。

しかし、会場の長谷ダムは三日月山のふもとにあり、公共交通機関はなく、駐車場も限られているため、会場に足を運ぶことは容易ではなく、特にご高齢の方にとって負担を伴います。

そこで、少しでも多くの方にご来場いただこうと、10年ほど前から、会場までの無料送迎バスを運行しています。送迎バスは、3ルートを30分おきに運行しており、参加者の足として定着しています。

運行は、「株式会社香栄社」と「医療法人和仁会」が自社のマイクロバスを提供し、運転もそれぞれの社員がしてくれています。きっかけは校区内に本社がある香栄社から「何か地域に貢献したい」とのご相談をいただいたことでした。同じ思いを持っていた和仁会にも声をかけていただき、2社によるバスの運行が始まり、今まで続いています。また、「香椎丘リハビリテーション病院」には平成27年から、ステージイベント出演者の機材の運搬をしてもらっています。



マイクロバス

香椎下原校区自治協議会の丸岡会長は、「高齢化が進む校区にあって、企業や医療法人などと一緒に校区の活性化に取り組むことは、今後ますます重要になっていく。」と語っています。



香椎高校吹奏楽部

西区
小呂
校区

小呂島の魅力ある島づくり、進んでいます!

~「小呂島漁師のしまごはん」の開発と「いきいきサロン」の開設~

小呂島は、姪浜渡船場から約65分、玄界灘に浮かぶひょうたん型の島です。島には約70世帯、約200の方が暮らし、多くの方が漁業に従事しています。豊かな漁場ときれいな海に恵まれ、ブリやヒラメ、アジなどの海産物は抜群、福岡市の重要な水産拠点です。今回は、島づくりの取組み二つを紹介します。

1つは、特産品「小呂島漁師のしまごはん」の開発です。玄界灘で獲れた天然ブリをしょうゆに漬けて焼きほぐしたフレークで、漁師料理をベースにしたもの。ご飯にかけて食べると最高です。魅力ある島づくりを進める「しまづくり協議会」の若手グループが中心となって調査・研究を重ね、行政の支援も引き出しながら、島民一丸となって商品化しました。島の魅力を伝える逸品を是非味わってみてください。

もう1つは、介護予防「いきいきサロン」の開設です。平成27年10月、島民サポーターの方々を中心に、西保健所との共働で開設しました。月に数回、介護予防の勉強を重ねた島民サポーターが、お年寄りの健康維持や認知症予防のためにレクリエーションや体操を行い、手作りのサロン運営を行っています。住み慣れた島で長く暮らしていくため、島内での介護予防の取り組みが課題となっていました。今、大きな期待を集めています。



小呂島



小呂島漁師のしまごはん (60g、税込540円、天神岩田屋本店などで販売) 問合せ: 市漁協小呂島支所809-1560



介護予防「いきいきサロン」

城南区

鳥飼
校区

鳥飼チルドレンズミュージアム

鳥飼校区では、自治協議会青少年育成部と公民館が共催して、平成20年度から毎年11月に子どもたちが五感を通したものづくりの楽しさや、自然現象の不思議さを体験する「鳥飼チルドレンズミュージアム」を行っています。

平成27年度は、11月14日に開催し、子どもやその保護者など約800名の方が参加しました。

毎回、子どもたちに楽しんでもらえるように、地域の方や福岡大学生などのボランティア団体が協力して、様々なコーナーを準備しており、今回は、勾玉作り、空気砲遊び、液体窒素を使った超低温実験、缶バッジ作りなど16種類の体験コーナーで楽しんでもらいました。見られない素材や道具にふれる機会があり、子どもたちにとって良い経験になっていると思います。

この事業が、子どもたちの健やかな成長や地域での見守りに繋がるように、みんなで協力していきます。



勾玉作り



超低温実験



缶バッジ作り

報告 第4回 福岡市自治協議会サミットを開催しました!



福岡市では、11月27日(金)もちバレスにおいて、「自治協議会サミット」を開催しました。自治活動に貢献いただいた地域活動実践者の方々に感謝状を贈呈する「自治貢献者感謝状贈呈式」や、校区で地域活動されている団体の皆さまからの活動事例の発表、企業やNPOなどの地域活動への参加などについてのパネルディスカッションなど、今後の地域活動のスキルアップの機会となるように実施しており、今回で第4回目を迎えました。

また、今年は、地域の交流の場として広がりつつある「地域カフェ」を体験していただくため、城南区堤公民館で毎月開催されている「つつみカフェ」に特別に出張開催していただきました。

当日は、約600名の方々にご来場いただき、「各校区の具体的な取組みが非常に参考になった」「パネルディスカッションをもっと聞きたかった」などのご意見をいただきました。



お知らせ 「“ふくおか”地域の絆応援団」を募集しています!!

自治協議会や自治会・町内会などの地域団体が行っている地域活動を、様々な形で応援している企業や事業所、商店街などに、「“ふくおか”地域の絆応援団」として登録していただき、さらなる企業・商店街の地域活動への参加を促進します。詳しくは福岡市HPをご覧ください。



“ふくおか”地域の絆応援団

検索

●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまい COM

検索

お問い合わせ・地域の情報などは各區役所地域支援課まで

東 区役所 ☎092-645-1041 FAX:092-645-1042
博多区役所 ☎092-419-1048 FAX:092-434-0053
中央区役所 ☎092-718-1062 FAX:092-714-2141
南 区役所 ☎092-559-5072 FAX:092-562-3824

城南区役所 ☎092-833-4063 FAX:092-822-2142
早良区役所 ☎092-833-4416 FAX:092-851-2680
西 区役所 ☎092-895-7036 FAX:092-882-2137

次号は「交流(国際・絆づくりなど)」をテーマにお届けいたします!

発行/福岡市市民局コミュニティ推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL:733-5161 FAX:733-5595 協力/福岡市自治協議会等7区会長会

福岡市 私たちのまちの話題を紹介します コミュニティ通信

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。

第28号 (平成28年10月発行)

目次

- 東区【香椎浜校区】…… かしいはま子どもの家 ぽてとはうす
- 博多区【那珂校区】…… 認知症 見守り・声かけ訓練 in 那珂(那珂3丁目町内会)
- 中央区【春吉校区】…… 『春吉校区地域カフェ』で心も体もリフレッシュ
- 南区【横手校区】…… 横手三丁目十日相撲
- 城南区【片江校区】…… 片江ドミノ2016
- 早良区【高取校区】…… シルバー110番 ～安心して暮らせるまち～
- 西区【西陵校区】…… 池を巡る観月コンサート
- お問い合わせ・地域の情報などは、各区役所地域支援課まで

東区

【香椎浜校区】 かしいはま子どもの家 ぽてとはうす

香椎浜校区では、小学生から中学生の子どもたちが安心して集える居場所として「かしいはま子どもの家 ぽてとはうす」を平成28年7月にオープンしました。

場所は香椎浜西公園集会所(旧老人いこいの家)で、夏休み期間中は週に3日(火・木・日)開催し、延べ300人近い子どもたちが利用しました。9月からは原則毎週土・日曜日に開催し、午後1時から午後4時までの開設時間内は自由に入出入りすることができて、毎回20人程度の子どもたちが集まっています。

ボランティアスタッフが見守りの中で、子どもたちは盤ゲームやトランプ・パズルなどで遊んだり、宿題をしたりと、自由に好きな時間を過ごします。ぽてとはうすの周囲が公園なので外遊びも楽しむことも。おやつや食事の提供をする中で、子どもたちも調理や片付けに少しずつ興味を持ちはじめ、自主的にかかわる姿が見られるようになってきました。

「ぽてとはうす」の名前は、“ぽてと”のように子どもたちがいろんなところからいろんな可能性の芽を出してほしいとの願いからつけられました。運営は地域の有志等によるボランティアグループとグリーンコープ・東区社会福祉協議会などによる「ぽてとはうす」運営委員会が行い、校区社会福祉協議会と自治協議会、香椎浜公民館が後援しています。

「ぽてとはうす」は、異年齢の友だち、地域の大人たちとのふれあいや交流を通して、子どもたちの夢と未来を応援します。



ぽてとはうすオープン！



室内遊びの様子



外でもしっかり遊びます

博多区

【那珂校区】 認知症 見守り・声かけ訓練 in 那珂(那珂3丁目町内会)

那珂3丁目町内会では、安心して暮らせるまちづくりの一環として、町内にある福祉施設「ふぁみりー那珂」と共催し、行政とも連携しながら、認知症散歩(徘徊)者に対する「見守り・声かけ訓練」を実施しました。

散歩(徘徊)したり、困っている認知症の方を見かけた時に、いかに安心してもらいながら安全を確保するかは、その時の声のかけ方が大切になります。

参加者は、訓練の前に認知症について学び、3～4人のグループに分かれ、小学校の敷地内にいるスタッフが扮する認知症高齢者に声をかける訓練を行いました。様々な状況にある相手の気持ちに心配りをして声をかけないと、不信感をあおって話を聞いてくれなくなったり、その場から立ち去られたりしてしまいます。初対面の方への声かけは、訓練であっても勇気が必要でした。

訓練後には全体で振り返りを行い、声かけについての気づきや、認知症に扮したスタッフである声かけを受ける側の感想を共有しました。

この訓練を通じて、高齢者への「気づき」の目を養い「声かけ」ができるように、今後も続けて実施していきます。

また、認知症になっても安心して暮らせる支援サポート体制づくりを進めていきます。



訓練前に認知症講座



心配りのある声かけを実践



安全な場所まで同行

中央区

【春吉校区】 『春吉校区地域カフェ』で心も体もリフレッシュ

春吉校区では、平成28年6月から「春吉校区地域カフェ」を開催しています。

カフェは、毎月第3水曜日の午前10時から、渡辺通五丁目にあるBOサンテ整骨院を会場に参加費百円で開催しています。

このカフェの特色としては、整骨院の広い診察室を使い、誰でもできる簡単な体操で体をほぐすとともに、体操後みんなで歓談し、参加者の心までほぐす内容となっていることです。

体操は毎月テーマを決め、体の様々な部位を刺激することにより、健康を維持してもらうことを目的としており、カフェの協力者である整骨院院長の寺田宗一郎さんは「季節季節の時事も交えながら参加者がその都度心と体のリズムを整えてもらえれば」と季節特有の体の不調についての話しも交えながら、参加者に体操を教えていました。

体操が終わると、みなさんお茶やお菓子を片手におしゃべりするなどして自由に過ごされ、「地域に居場所ができてありがたいです」「体操が楽しいので、友達を誘ってまた来たいです」と笑顔で話しておられました。

春吉校区民生委員児童委員協議会の植村会長は「地域の人がカフェに興味を持ってもらい、外に出るきっかけになればうれしいですね」と話していました。



体操で体を柔らかく



茶菓とおしゃべりで心も柔らかく

南区

【横手校区】 横手三丁目十日相撲

提灯に灯がともる8月10日の夕方6時、横手にある正法寺の境内で横手三丁目十日相撲が行われ、まわし姿の男の子たちが集まりました。

横手三丁目十日相撲は、毎年8月10日に行われている横手観音様への奉納相撲。起源は1732年、享保の大飢饉の時に横手に流れ着いた観音様を供養するために始められたもので、以来、今日まで284年間もの間受け継がれている伝統行事です。

力士は、小学校の部、乳幼児の部があります。はじめに観音堂に向かって安全祈願を行うと、勇ましい和太鼓が奉納され、続いて3歳児未満の稚児土俵踏みです。行司がまわし姿の稚児を抱えて「よいしょ」と声をかけ、順番に土俵の土を踏みました。

次がいよいよ取組です。学年別に取り組みが始まると、応援席からも「押し押し」「まわしを取れ」と大きな声援。子どもたちも歯を食いしばって力を籠め、白熱した力相撲が繰り広げられました。

この日、土俵の土を踏むと、その年は病気をしないとされる横手三丁目十日相撲。いつまでも残したい、夏の横手の風物詩ですね。



出番を待つ子どもたち



稚児土俵踏み



のこった、のこった

城南区

【片江校区】 片江ドミノ2016

片江校区自治協議会では、平成28年3月末に地域住民の連帯感を深める新たな交流事業として「片江ドミノ」を実施しました。ドミノ倒しは、ドミノを並べるだけで簡単に出来ることや共通の目的を持つことで初めて出会った人とも話がしやすく、子どもから高齢者まで幅広い年齢の方が参加できて楽しめるイベントです。ドミノが途中で倒れないように並べ上げる達成感や想像どおりに美しく倒れていく様には感動があります。

イベント当日は、小学校講堂を22のエリアに区画割りをし、それぞれのエリアにドミノを並べ、それを繋げて約3時間かけて一つの大きな作品を作り上げました。立体や曲線、文字やキャラクターなど、各エリアで様々な仕掛けがみられ、見学に来た方もとても楽しんでいました。完成したドミノを倒す時には、途中で止まるところも多々ありましたが、大きな歓声が上がリ、とても見ごたえがある大型のドミノ倒しでした。「次の片江ドミノはいつですか？」という声がたくさん聞かれ、次回開催を楽しみにしている方も多くいるようです。

片江ドミノは、三世代が交流できる地域活性化事業として、今後も毎年開催しながら規模を拡大し、「片江校区にドミノ倒しあり！」と言えるような一大イベントに成長させることを目指しています。



子どもから大人まで参加



これぞ片江ドミノ！



会場全体の様子

早良区

【高取校区】 シルバー110番 ～安心して暮らせるまち～

高取校区ではシルバー110番事業に取り組んでいます。

シルバー110番は、子ども110番の高齢者版です。何かあったときに、すぐに相談できて頼れる場所を地域の中につくりたいとの思いから始まりました。

シルバー110番のプレート掲げている協力者は、地域住民だけでなく商店街や福祉施設、コンビニなど、約50か所にのぼり、困りごとを抱えた高齢者が来られた際に、道案内したり、公的機関につないだり、高齢者の支援に一役かかっていただいています。

商店街等がプレートを設置することで、高齢者にとっての身近な相談場所ができ、普段地域の行事に参加されない方の孤立を防止する効果が期待できます。

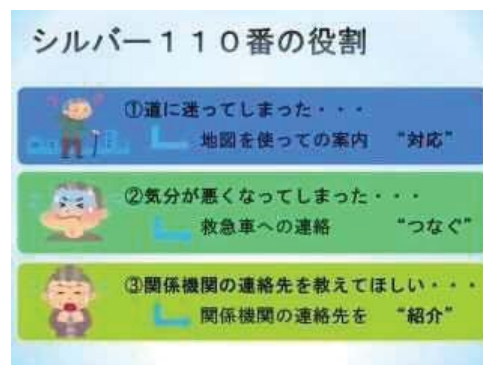
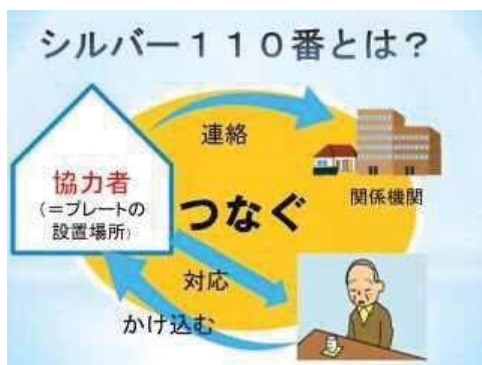
また、徘徊している認知症の方を発見してもどこに連絡していいのかわからないという方をサポートすることで、認知症の方への支援につながると考えられます。

何より、何かあったときに頼れる場所が地域の中にあることで、高取校区内の方はもちろん高取校区を訪れる高齢者の方の安心にもつながると考えています。

高取校区社会福祉協議会では、協力者が協力しやすい仕組みづくりを大切に考え、協力者が特別に大きな役割を持って活動するというものではなく、気軽な人助けをしていただけるようサポートしていきます。



シルバー110番プレート
(高取小5年植木颯汰君の作品)



西区

【西陵校区】 池を巡る観月コンサート

西陵校区で行われる「斜ヶ浦池観月コンサート」は、今年で7回目を迎えました。

「斜ヶ浦池」は元農業用溜池として利用され、平安時代に鴻臚館の瓦を焼いた場所と云われています。現在は遊歩道などが整備され市民の憩いの場となり、「西区の宝」にも登録されています。

自治協議会の中で、歴史的にも謂われがあるこの場所を何か活用できないかと検討し、西陵公民館内で行ってきたコンサートを「観月コンサート」として行うこととしました。

「観月コンサート」は、仲秋の名月に近い土曜日の19時より行い、毎年違った楽器で演奏します。今まで演奏された楽器は「二胡」「フルート」「オカリナ」「津軽三味線」「ギター」などで、今年は【ウクレレ】の演奏です。

会場の池の周りには紙灯籠が設置され、薄暮の中、灯籠の灯が湖面に映え幻想的の中で演奏されます。秋の夜長を虫の音のなかに、柔らかな楽器の音色が響いてきます。

今年は雨のため残念ながら公民館でのコンサートになりましたが、夕涼みがてら多くの方が聴きにこられる大きなイベントに育っており、自家製のお月見団子セットも即完売するほどの盛況です。

これからも校区の皆さまに喜んで頂けるよう取り組んでいきます。



斜ヶ浦池



斜ヶ浦池観月コンサート





フルーツコンサート





ウクレレコンサート


お問い合わせ・地域の情報などは、各区役所地域支援課まで


 [東区役所](#)……電話番号:092-645-1041/FAX番号:092-645-1042


 [博多区役所](#)…電話番号:092-419-1048/FAX番号:092-434-0053

 [中央区役所](#)…電話番号:092-718-1062/FAX番号:092-714-2141

 [南区役所](#)……電話番号:092-559-5072/FAX番号:092-562-3824

 [城南区役所](#)…電話番号:092-833-4063/FAX番号:092-822-2142

 [早良区役所](#)…電話番号:092-833-4416/FAX番号:092-851-2680

 [西区役所](#)……電話番号:092-895-7036/FAX番号:092-882-2137

メモ

A series of 22 horizontal dashed lines intended for taking notes.